

11 浜田圏域（森林・林業）

（1）現状と課題

浜田圏域の森林資源は、スギ・ヒノキ人工林や豊富な広葉樹天然生林が本格的な利用期を迎えており、木を「伐って使って、植えて育てる」循環型林業を実現するため、原木の増産、地域材の需要拡大、木質バイオマスのエネルギー利用、原木乾しいたけの生産維持などの取り組みを進めてきました。

こうした取り組みにより、森林経営計画の作成と計画に基づく木材生産、木材乾燥機の設置、江津バイオマス発電所等への木質チップ供給体制の整備、人工ホダ場の造成等が行われています。

一方、伐採事業地の安定的確保や高性能林業機械の効率的な運用による原木供給体制の強化、製材需要が減少する中での地域材製品のシェア拡大や製材品の品質向上など、課題も多くあります。

また、循環型林業の実現のためには、森林所有者に利益還元ができる低コスト作業システムを確立するとともに、人工造林の低コスト化や苗木の安定供給による確実な森林再生の仕組みづくりが必要となっています。

このため、これまでの取り組みを踏まえ、川上から川下までの課題に一体的に取り組むことにより、産業として自立した林業の実現を目指します。

また、病虫害被害森林の機能回復や鳥獣被害に対する集落対策などの課題にも対応していきます。

（2）重点的取組の展開方向

①原木増産と低コスト再造林の推進

森林経営計画の作成による計画的な伐採事業地の確保、高性能林業機械の地域に適した効率的な運用、原木生産流通の効率化など、原木増産に向けた取り組みを行うとともに、コンテナ苗の生産体制の確立、一貫作業システムの検証など、低コスト再造林の推進に向けた取り組みを実施します。

②質の高い木材製品の製造と出荷拡大

人材の育成や木材乾燥機の効果的運用により、質の高い木材製品の製造を目指します。また、公共建築等における木材製品の需給円滑化、地域材製品の情報発信・新たな商品づくり、地域材利用の普及啓発等を行うことにより木材製品の出荷拡大に取り組めます。

③地域資源の活用

江津バイオマス発電所等への木質チップの安定供給など、未利用材等の有効活用を進めます。

また、しいたけの生産維持に向け、原木供給対策、労務軽減に向けた検討や新規参入者の育成支援、品質向上対策などに取り組めます。

④公益的機能が強く災害に強い森林づくり

森林の公益的機能を高度発揮させるため、計画的な保安林の指定及び施業要件の変更を行うとともに、必要に応じて治山事業を実施します。

また、松くい虫被害等により森林の疎林化が進行し、一部で機能低下が見られる海岸林の保全・管理を進めます。

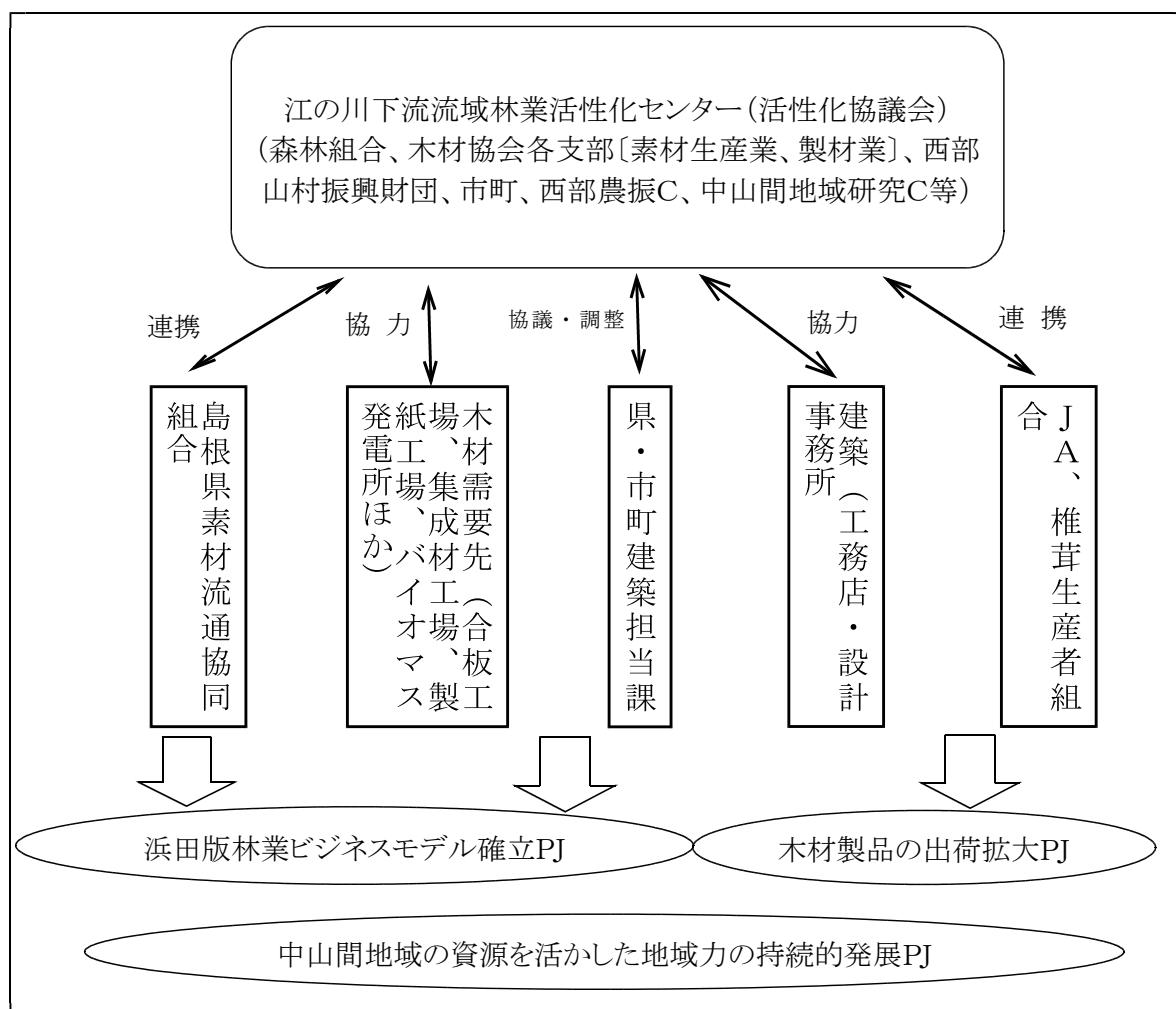
⑤県民参加の森づくり

森林に対する県民理解の醸成を図るため、水と緑の森づくり税のほか、島根CO2吸収・固定認証制度により県民の森づくり活動への参加を支援します。

(3) 主な指標の将来見通

項目	H26 → H31	備考
1 原木生産		
①森林経営計画に基づく原木生産量 (m ³)	10,000 → 28,000	
2 森林整備		
①低コスト再造林対策苗木 (精英樹・コンテナ苗) 生産量 (千本)	0 → 66	
3 地域資源活用		
①しいたけ生産量 (t)	86 → 92	

(4) 推進体制



(5) 地域プロジェクト

- ① 浜田版ビジネスモデル確立プロジェクト
- ② 木材製品の出荷拡大プロジェクト
- ③ 中山間地域の資源を活かした地域力の持続的発展プロジェクト

浜田-1

浜田版林業ビジネスモデル確立プロジェクト

浜田圏域（浜田市、江津市）

5つの柱の区分 [県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能]

1 目的と取組

目的

浜田圏域の森林は本格的な利用期を迎え、間伐から主伐への転換と天然林の伐採促進により伐採量は増加している。県下の木材の需要には大きな余地があり、木質バイオマス発電所の本格稼働に伴い原木の増産と安定した供給が必要となっている。

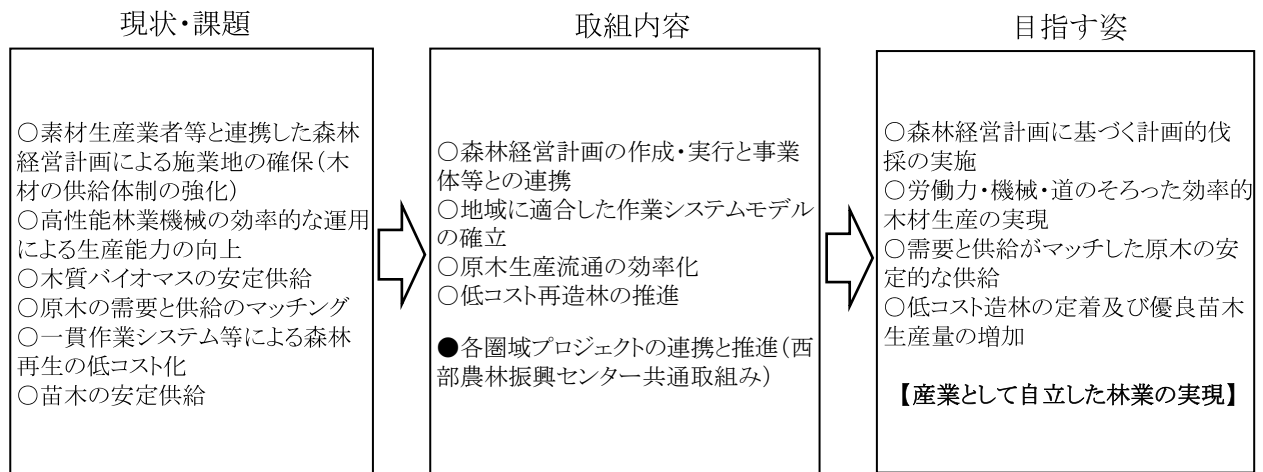
木を「伐って使って、植えて育てる」循環型林業を本格軌道に乗せ、なおかつ需要に応えるため、高性能林業機械の効率的な利用により生産能力を向上し、主伐による更なる原木増産、再生林の着実な実施を図る必要がある。

これまで実施してきた浜田地域の地形に適した作業システムの実証により低コスト林業を実現し、原木流通の効率化など木材生産から流通までのしくみを確立し、産業として自立した林業の実現を目指す。

取組

- 森林経営計画の作成・実行と事業者等との連携
 - ・積極的に森林経営計画を作成し、計画的に集約化施策を実施する（施業地の確保）。
- 地域に適合した作業システムモデルの確立
 - ・高性能林業機械の効率的な運用方法を確立する。
 - ・林業公社の主伐と連携する。
- 原木生産流通の効率化
 - ・地域需要に応じた原木の供給に向けて調整を行う。
 - ・中間土場を活用して効率的に原木を供給する。
 - ・木質バイオマス供給システムの効率化を進める（バイオマス品質の改善と安定した納品）。
- 低コスト再生林の推進
 - ・コンテナ苗の生産技術と生産体制を確立する。
 - ・一貫作業システム等を検証する（林産班による植樹）。
- 各圏域プロジェクトの連携と推進（西部農林振興センター共通）
 - 素材生産事業者等の現状調査を実施し、情報の共有と連携による原木需給の円滑化等を進める。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

- 需要に応える原木増産プロジェクト（県共通）
- 低コスト再生林推進プロジェクト（県共通）
- 木材製品の出荷拡大プロジェクト（浜田圏域）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
森林経営計画の作成・実行と事業体等との連携	積極的な森林経営計画の作成、計画的な集約化施業の実施（施業地の確保）	森林組合、素材生産事業体、市	H28～31
地域に適合した作業システムモデルの確立	高性能林業機械の効率的な運用方法の確立	森林組合、素材生産事業体	H28～31
	林業公社の主伐との連携	森林組合、素材生産事業体	H28～31
原木生産流通の効率化	地域需要に応じた原木の供給に向けた調整	森林組合、素材生産事業体	H28～31
	中間土場を活用した効率的な原木の供給	森林組合、素材生産事業体	H28～31
	木質バイオマス供給システムの効率化	森林組合、素材生産事業体	H28～31
低コスト再造林の推進	コンテナ苗の生産技術と生産体制の確立	森林組合、西部農林振興C	H28～31
	一貫作業システム等の検証	森林組合、西部農振C	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項目	現況（H26）	目標（H31）
森林経営計画に基づく原木生産量 【総合戦略】	10千m ³ →	28千m ³
認定事業体等による原木生産量 【地域独自】	40千m ³ →	60千m ³
低コスト再造林対策苗木の生産量 【総合戦略】	0千本 →	66千本

※低コスト再造林対策苗木とは、生長に優れた精英樹苗並びに植栽効率の良いコンテナ苗

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：石央森林組合、江津市森林組合、邑智郡森林組合、素材生産事業体、浜田市、江津市、西部農林振興センター（林業部）
- 連携・協力機関：木材市場、製材事業体、江の川下流域林業活性化センター、中山間地域研究センター

浜田-2

木材製品の出荷拡大プロジェクト

浜田圏域（浜田市、江津市）

5つの柱の区分 [県民の安心と誇り 商品づくり 担い手づくり 農山漁村づくり 環境保全と多面的機能]

1 目的と取組

目的

製材需要と密接な関係がある新設住宅着工戸数が減少傾向にある中、浜田圏域の製材所は地元工務店と強く結びついており、戸数全体に占める県産材住宅の割合は比較的高い。一方、乾燥材製品の生産体制が弱い、価格や商品としての魅力の面で競争力が弱い、原木が安定的に確保できないことなどの課題があり、地域内需要に対して生産量は少なく、他地域で製材された製品や外材の取扱いが多い。

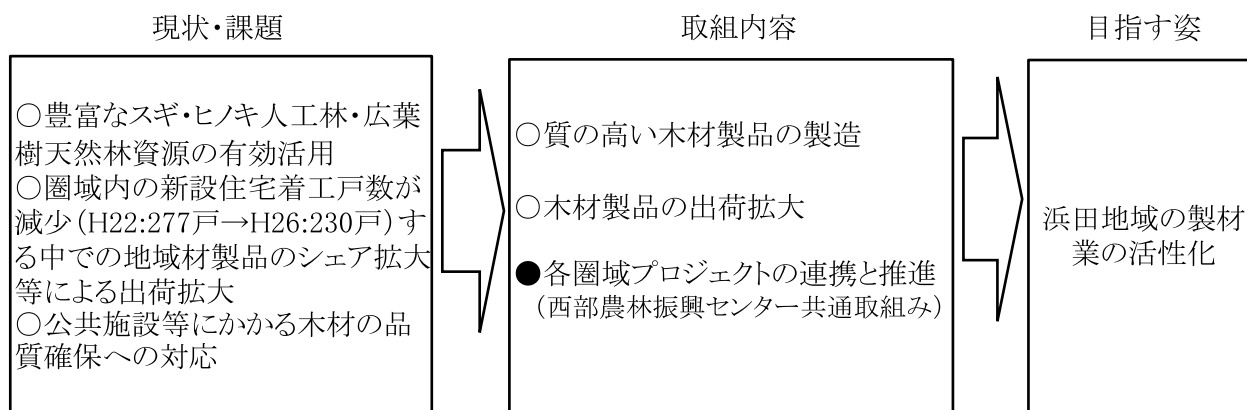
こうした中、乾燥材製品の生産体制の強化に向けた木材乾燥機の導入、石州くんえん材のPRや異樹種3層クロスパネル等の新たな商品の開発、製材用原木調達の手続きの円滑化の検討等に取り組んできた。

そこで、木材乾燥機の効率的運用による乾燥材製品の出荷や地域材製品の情報発信等に取り組むことにより、圏域内で製材された県産材製品のシェアの回復及び出荷拡大を目指し、もって浜田地域の製材業の活性化を図る。

取組

- 質の高い木材製品の製造
 - ・木材乾燥技術者など、木材製品の品質を確保する人材の育成を行う。
 - ・木材乾燥機の効果的運用に取り組む。
- 木材製品の出荷拡大
 - ・公共建築物等における木材製品の需給を円滑化する。
 - ・地域材製品の情報発信と提案、魅力ある商品づくりにより県内外での販売を促進する。
 - ・住民や工務店等に対して地域材利用の普及啓発を行う。
- 木材製品の輸出チャレンジ（西部農林振興センター共通）
 - ・浜田港等を活用した県産木材製品の輸出を志向する事業者へ情報提供、助言・指導等を行う。
- 各圏域プロジェクトの連携と推進（西部農林振興センター共通）
 - 製材事業者等の現状調査を実施し、情報の共有と連携による製品流通の円滑化等を進める。

プロジェクトの概要



関係・連携するプロジェクト

- 木材製品の品質向上・出荷拡大プロジェクト（県共通）
- 浜田版林業ビジネスモデル確立プロジェクト（浜田圏域）

2 取組項目と具体的行動計画

取組項目	具体的行動	主な実施主体	実施期間
質の高い木材製品の製造	木材製品の品質を確保する人材の育成	木材協会、西部山村振興財団、西部農振C	H28～31
	木材乾燥機の効果的運用	木材協会、西部山村振興財団、西部農振C	H28～31
木材製品の出荷拡大	公共建築物等における木材製品の需給円滑化	木材協会、市、西部農振C	H28～31
	地域材製品の情報発信と提案、魅力ある商品づくり	木材協会、西部山村振興財団、ポリテクカレッジ島根	H28～31
	地域材利用の普及啓発	木材協会、西部農振C	H28～31

3 成果指標（数値目標）

項目	現況（H26）	目標（H31）
乾燥材出荷量 【総合戦略】	100m ³	→ 586m ³
製材品出荷量（県産材） 【地域独自】	2,786m ³	→ 3,000m ³

4 推進体制

- プロジェクトメンバー：島根県木材協会浜田支部、製材事業者、工務店、（公財）島根県西部山村振興財団、ポリテクカレッジ島根（島根職業能力開発短期大学校）、浜田市、江津市、江の川下流域林業活性化センター、西部農林振興センター（林業部）
- 連携・協力機関：素材生産事業者、石見森林組合、江津市森林組合、邑智郡森林組合、浜田木材流通センター、浜田港湾振興センター、浜田港振興会